

## 20230907 「多摩川の鮎」

今年、4年ぶりに妻の実家の宮崎に里帰りしました。

義理の父も母も80を超えています。元気でほっとしました。義父の趣味は「鮎釣り」で、昔は小さい鮎なら1日で2~300匹釣っていたといいます。それが、近年は本当に釣れなくなると嘆いていました。成魚の鮎は「とも釣り」という漁法で釣ります。鮎は縄張り意識が強く、縄張りに入ってきた別の鮎を追い出そうとします。とも釣りとは、おとりの鮎に針を仕掛けておいて川に放し、縄張りから追い出そうとして近づく鮎を針に掛けて釣る漁法です。

さて、東京都と神奈川県の間をなす多摩川ですが、この川にも鮎がたくさんいます。しかし、ここの鮎はとも釣りでは釣れません。理由は、多摩川の鮎は縄張りを持たないからです。というより、縄張りを持つ必要がないのです。その秘密は多摩川の水質にあります。多摩川の水は、奥多摩湖から延々と流れてきている清流と思いきや、そのかなりの割合は、生活排水の処理水です。処理水は、冬でも水温が高いです。そして何よりも処理水にはミネラルが豊富です。これが、川の石に付く苔を豊かに育てます。鮎にとって1年中えさが豊富な多摩川では縄張りを張る必要がないのです。

鮎の話は聞きませんが、私達の小平市を流れる玉川上水も水質に関する実態は同じです。多摩川から羽村の取水堰で取水された水が玉川上水として流れているわけではありません。この水は、地下に埋設されたパイプを通して多摩湖や狭山湖に行き貯水されます。玉川上水として小平を流れている水は、生活処理水です。ですから、冬でも温かいのです。市を流れる用水路の水も、東京都が管理しているとききました。

かつて、生活排水は、川に垂れ流されてきました。都会の川はどぶ川と呼ばれ、どぶ川が注ぎ込む海はヘドロにまみれました。そうした排水を浄化し、町の中に見事に蘇らせているというわけです。こうした人の健康と美しい町を守るための行政の努力もしっかり子供たちに伝えていきたいですね。